Let's Begin!

後援会ニュース

田村たかみつ後援会
発行責任者：福村留治
〒520-3005
滋賀県栗東市御園 1028
全国競馬労働組合内
TEL／077-558-0490
FAX／077-558-2762
e-mail／taka-3@fa2.so-net.ne.jp
URL ／http://www009.upp.so-net.ne.jp/t-tamura/

ごあいさつ

21世紀は、環境・平和・福祉の時代といわれる中で、私たちの住む「栗東市」は、平成13年に市制が施行され、新幹線新駅の設置や第2名神の建設などとともに、湖南の中核都市に向けたまちの開発が進みつつあります。

また、滋賀県は全国でも唯一、２０３０年まで人口増加が見込まれる県とされていますが、とりわけ草津・栗東はその中心的なまちとなっており、これから大きく変貌を遂げようとしているまちです。

しかし、まちの発展とは裏腹に、長引く不況も影響して、市の財政はきびしく、市債も６００億円近くまで膨らんでいる状況にあり、昨年誕生した国松新市長に、財政再建に向けて大きな期待が寄せられるところです。

さて、私は栗東に居住して26年になりますが、平成7年頃からの連合滋賀の役員として労働福祉行政に関わり、平成11年頃からは産業廃棄物処分場問題に関する住民運動で、行政と関わりあってきました。

これらの活動を通して感じたことは、「行政の目線」と「市民の目線」とは位置が違っていることが多いということでした。

まちは「民」で成り立っています。いくらまちにビルが増えても、いくら新幹線の駅ができても、「民」がこの栗東を愛し住み続けてくれないことにはまちは発展しません。

「市民」を主体とした行政と「市民」が参加する行政があってはじめて「まち」として活きてくるのではないでしょうか。

今回、私たちが暮らす栗東市について私と共に考え行動しようということで後援会を立ち上げていただきました。

まじめに一生懸命働く人や市民が報われ、笑顔があふれ、心が通い合うまちづくりを市民のみなさまと一緒に進めたいと思っています。

レッツ・ビギン！

一緒に住みよいまちづくりをはじめませんか？

田村たかみつ

田村たかみつ後援会の発会式を行いました

去る３月１１日（火）に「田村たかみつ後援会」の発会式を栗東トレセン内の会館で行いました。

発会式には、１３０人余もの後援会のみなさんが参加され、来賓に尾田市議会議員と北野県議会議員が出席され、祝辞をいただきました。

冒頭、福村留治後援会会長からの挨拶があり、つづいて駒崎憲二全国競馬労働組合中央執行委員長からも激励の挨拶がありました。

そして、「田村たかみつ」が栗東市政に対しての想いと決意を述べました。

そのあと、記念講演として、落語家の「桂福車」さんをお招きし、「選挙に行こうよ」という演題の落語を聞き、大いに笑って、にぎやかなうちに閉会となりました。

今回のご案内は、２月末で締め切ったため、３月以降に入会頂いた皆様には、ご案内の提出ができませんでした。お詫び申し上げます。

皆様には後援会拡大のためのご協力をよろしくお願いします。

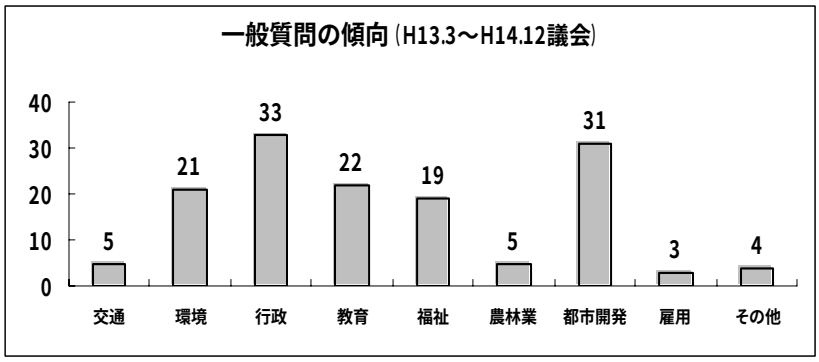
後援会発足ということから、栗東市の現状について少し考えて見ましょう。

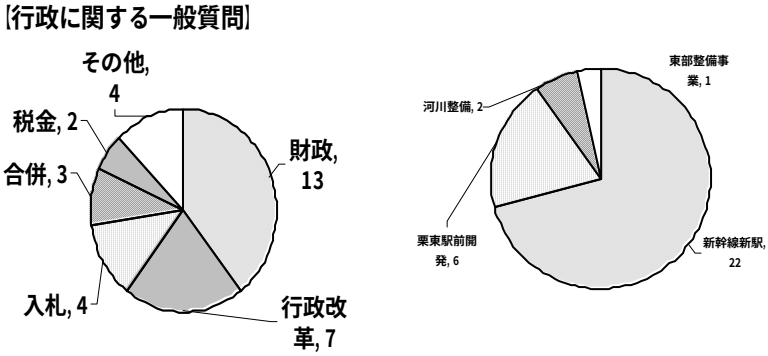
栗東の抱える問題とは…

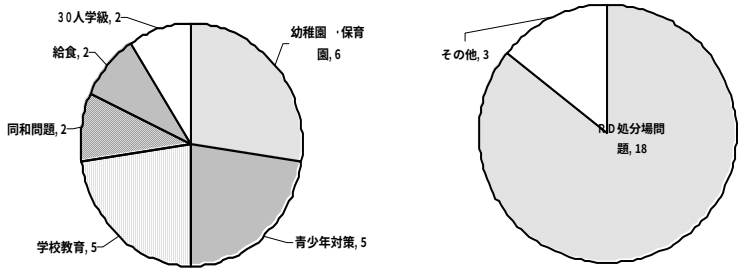
２０３０年まで人口が増え続ける県は“滋賀”とされています。その中でも草津・栗東の増加率が高いといわれています。

栗東においても栗東駅周辺の人口増加は著しく、大宝地区においては新たに小学校や幼稚園・保育園といった施設が増設されようとしています。

都市化の進む栗東市の議会では、今何が問題視され、どのように論議がすすめられているのでしょう。







■２年間の議会一般質問の傾向

平成１３年３月議会から平成１４年１２月議会までの一般質問の傾向を見ると、市制施行もあってか行政運営に関する事項が一番多く、その中でも「財政」に関する質問が１位で、次いで行政改革となっています。

財政については、平成１４年度の一般会計予算が２１９億円に対し、市債高（市の借金）が５８５億円となっており厳しい情勢です。今後、福祉センターの建設や新幹線新駅および周辺整備に膨大な経費負担が待っていますが、法人税等の税収が伸びない状況の中で、誰がどこから捻出するのでしょうか？

次に、都市開発についての一般質問では、新幹線びわこ栗東駅（仮称）に関する質問が多く、ほとんどが駅舎建設費２４０億円の負担についての質問でした。

現在、負担割合は、１／３ずつを県、栗東市、近隣市町で負担することとなっていますが、近隣市町とも財政的に厳しい状況の中で負担については慎重になっているようです。また、この問題は、合併問題とも複雑に関わっており問題は深刻ですし、市民からも不安の声が聞こえてきます。

教育に関する質問では、①幼稚園・保育園に関する件、②週５日制について、③青少年対策、などでしたが、やはり人口増加による幼・保各施設の不足や子育て支援としての幼・保の定数や料金に関する質問が多くありました。

４番目に多かった質問は、ＲＤ産業廃棄物処分場問題に関する環境問題です。

この問題は、平成１１年１０月に同処分場から高濃度の硫化水素が噴出したことがきっかけとなり、住人運動の盛り上がりと共に栗東市の大きな問題のひとつとして、昨年の市長選挙での争点にもなった問題ですので、多くの質問が出ています。

その他の質問としては、介護に関する質問が多く、特養老人ホームなどの入所困難の問題（1～2年待ち）も重大な問題となっています。

■まちの情報はリアルタイムに！

このように、栗東で起きている、あるいは問題視されていることを整理することで、私たちの住むまちのことが身近に感じられるのではないでしょうか。

本来なら議会をＴＶ放映したり、議会専用のホームページを設置し、リアルタイムに行政―議会―市民が情報を共有できるシステムが必要ではないでしょうか？

田村たかみつの想い

さぁー今からはじめよう！

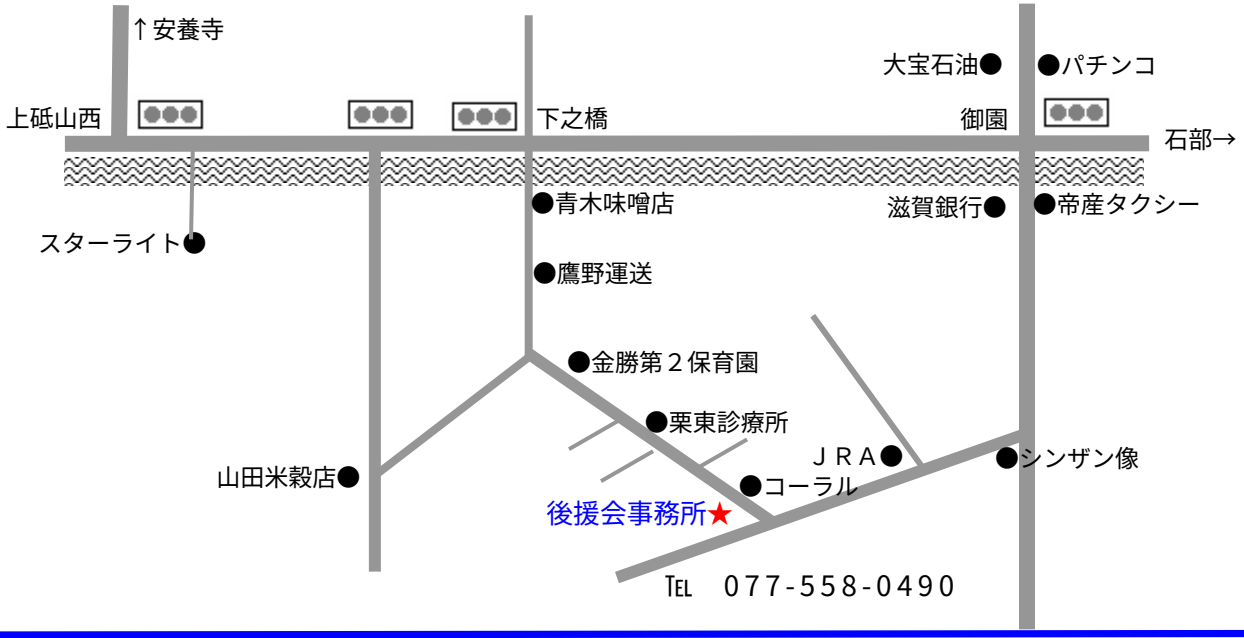
暮らし生き活き！　みんなが協同して開かれた市政を実現して、産業や農業･商業も盛んにして男女協同参画による生き活きしたまちづくりをすすめたい。

暮らし安心！　子どもからお年寄りまで、温かな心が通い、豊かな自然環境に恵まれ、安心して暮らせるまちづくりをすすめたい。

暮らし健やか！　明日を担う子どもたちや若者のパワーや創造力が発揮され、健やかに学ぶ環境を整えるまちづくりをすすめたい。

暮らし充実！　大きな転換期を迎えている今、古きを生かし、新しきを取り入れ、心と心が通い合うまちづくりをすすめたい。

後援会事務所



いつまで続くＲＤ問題　今度は水銀が検出される
行政は優先順位を市民の安全を第一とすべき

私が、このＲＤ問題に参加してから早４年目を迎えました。

当初、産廃処理を考える会を立ち上げたときは、このような重大な問題になるとは思っていませんでした。というのも、明らかに業者の違法行為による問題でしたから、行政指導で一気に解決！と思っていたからです。

ところが、実際は行政と業者との関わりも深く、思うようには行きませんでした。

▲すっかり様相の変わったＲＤ処分場。右が新しく設置された調整池

それでも、安全性の確認されない“ガス化溶融炉”は住民運動の成果で試運転もすることなく解体となりましたし、県は平成１３年１２月に業者に対して「改善命令」を出しました。

問題解決に向けた県の施策は、一歩ずつは進んでいるのですが、如何せん時間が掛かり過ぎです。

処分場の地下水からは“ダイオキシン”が基準以上に検出され、ベンゼンやテトラクロロエチレンといった揮発性ガスも検出されているのですが、何の対策もまだ取られていません。そして、今回は“水銀”が基準の１９倍もの濃度で地下水から検出されました。

３年たって近隣住民の不安が解消されるどころか、増大するばかりですし、地下水は流れ続けているのです。

行政は、様々な施策を執行していかなければなりませんが、「住民の安全」を優先順位の第一にもってくるべきです。

４月から、処分場北側の法面の後退のための掘削が始まろうとしていますが、行政は安全策や住民との確認事項をしっかりと守り、一日も早く問題が解決するよう積極的に対応すべきですし、私もしっかりと見守って行かなくてはと思っています。（田村）

栗東の産廃処分場　地下水汚染を確認

総水銀　基準の19倍

住民団体　詳細な調査要求へ

2003.3.2 朝日

栗東市小野のＲＤエンジニアリング産廃処分場下流の地下水から、国の環境基準の19倍の総水銀、同9倍のヒ素が検出されていたことがわかった。これまでに硫化水素や強アルカリ性排水など同分場が原因とされる有害物質が見つかっており、地下水の汚染も確認された。住民団体は市や県などに市民への現状説明や、有害物質の搬出、詳細な調査などを改めて求めることにしている。

2月28日夜、栗東市内であった住民団体「産廃処理問題合同対策委員会」の勉強会で、市調査委員会副委員長の磯山卓雄・同志社大理工学研究所教授（地質学）が報告した。

それによると、確認された総水銀は、市が昨年1年間、同処分場の下流約200㍍付近の地下12～24㍍の地下水を採取し、隔月ごとに分析していた。最高で0・009㍉グラム（環境基準は0・0005㍉グラム）となり、いずれも環境基準を超えた。ヒ素も同じ層で最高0・092㍉グラム（同0・01㍉グラム）だった。

調査は01年6月、同処分場の下流の地下水から微量の水銀を確認したことから、住民団体が市に要望していた。

地下水から水銀などを確認したことで、埋没ガラスなど限定された同処分場に、許可外の工場廃棄物や薬品、農薬などが持ち込まれた可能性が改めて高まった。

横山教授は「処分場の深い層まで大量の廃棄物が埋められているようだ。対症療法をとるか、少しずつでも取り除いていくかを考える段階だ」と話している。

ホームページを開設しました

私は、大好きな栗東市を市民の皆さんと住みやすい町にするためのコミュニケーションの場として、このホームページを開設しました。

このページを通じていろいろな交流ができればと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

アドレスは

http://www009.upp.so-net.ne.jp/t-tamura/